

規模の大きな学校図書館での利用に 応えられるシステムを求めてリプレイス

学校法人東福岡学園 東福岡高等学校
東福岡自彊館中学校

学校法人東福岡学園は、福岡空港から地下鉄で博多駅に向かう途上の東比恵駅の近く、博多駅からも徒歩で訪れることができる場所にあります。ラグビーやサッカー、野球などの体育系部活動の強豪校として全国的に有名です。

実は、図書館もすごいんです

——校門を入ると緑豊かな前庭と迫力のある大きな校舎が目の前に現れ、思わず足を止めて眺めてしまいました。

本校は1955（昭和30）年に開校し、現在の新校舎は学園創立65周年、高校創立55周年にあたる2010（平成22）年に竣工したものです。高校だけで62クラス、2500人余が在籍する男子校です。

——62クラス！校舎が大きいのも納得です。図書館も広々としていて、四方を書架に囲まれています。圧迫感がないですね。

情報メディアセンターと呼んでいて、蔵書は約5万冊、閲覧席は200席以上あります。また、同じ学園敷地内に東福岡自彊館中学校がありますが、そちらにも学習図書室があります。中・高で資料の相互貸借を行っていて、情報館では分館管理機能を利用し、中学校の蔵書もあわせて管理しています。

——学校のウェブサイトのトップページに掲載されている写真も、ここで撮影されたものですね。



現在の新校舎に移転してから、ここは学校のアピールポイントの一つにもなっています。本校はスポーツが強いというイメージがあると思いますが、「文武両道」を掲げているとおり、図書館などの充実にも力を入れています。学校長の松原は、図書館の活用や読書推進にも熱心で、図書館をもっと利用してもらうためのアイデアを自ら色々と考えて実践しています。

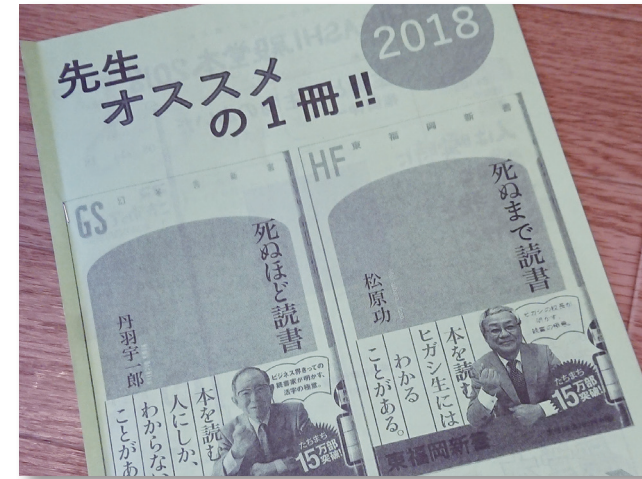
校長先生が図書館の盛り上げ役

例えば、毎年発行している「先生オススの1冊!!」は今年で13冊目になりますが、以前は先生の名前が入った普通のリストでした。でも、本校は教職員の数もとても多いので、名前と推薦文だけではピンとこない場合もあるようで、生徒の反応もいま一つでした。これを、もっと興味を持ってもらえるものにしようと、校長と相談して表紙や中身を工夫し、数年前から教職員全員の顔写真と直筆コメント入りという現在の形になりました。——授業を持っている先生だけでなく、司書さんも校長先生も事務の方も、皆さん同じように顔写真と直筆の推薦文が載っているんですね。

毎年これを作るのはなかなか大変ですが、出来上がると全校生徒に配布していて、生徒だけでなく保護者の方々にも人気があります。推薦してくれた先生に「この本読んだよ」と伝えに来る生徒もいるようで、先生方も喜んでくれています。



——表紙も工夫されたということですが、今年の表紙で『死ぬほど読書』の丹羽宇一郎さんを真似ていらっしゃるの校長先生ご自身……？



※表紙画像の掲載・改変は許諾を受けたものです

はい。これも校長のアイデアです。中学校の校長と一緒に学生服を着て表紙に登場した年もありました(笑)。館内に「先生オススの1冊!!」で紹介した本を展示しているコーナーがありますが、いつも多くの本が貸出中になっています。

忙しくても、生徒への声掛けは一人一人に何度でも

——こちらでは、図書委員会のほかに図書部というものもあるそうですね。

図書委員会は各クラスから2名ずつで124人います。人数は多いですが一人一人の図書委員の活動時間は限られているので、読書や図書館に興味を持つきっかけにもなるような活動を中心にしています。委員会とは別に部活動の一つ



学校法人東福岡学園東福岡高等学校
〒812-0007
福岡市博多区東比恵2丁目24番1号
TEL:092-411-3702
<http://higashifukuoka.ed.jp>



として図書部があります。現在の在籍は5名。人数は少ないですが、自分たちで色々企画を考えて活動しているという生徒が多く、学園祭などでのイベント企画や他校との交流、蔵書点検や本の装備等の図書館業務の補助など、色々な活動をしています。昨年からは、「こんにちは情報メディアセンターです」という発行物の編集も図書部の生徒が行うようになり、生徒にも人気です。

——勢いがあって、図書部の生徒さんの熱意が紙面から伝わってきます。でも、図書委員会と図書部の活動を支える司書のお二人は、大変ですね。

確かに、以前に比べて生徒の活動をサポートするような仕事は増えていて、その分、蔵書管理などの図書館業務を行う時間が十分には確保しにくくなっています。それでも、来館する生徒への声かけは意識して行うようになっています。利用



案内も配布していますが、カウンターに来たときにも「貸出延長もできるからね」などと利用規則について一声かけます。また、「ここでは静かにしようね」といった図書館利用上のルールを、その都度、一人一人に、何度でも伝えます。基本的なことですが、貸出延長ができることを知らずに延滞したことをきっかけに足が遠のいてしまうといった生徒もいるので、こうした声かけはとても大事だと考えています。

——館内には展示コーナーが色々ありますね。



図書館の分類順にきちんと本が並んでいるだけでは、読みたい本と出会えない生徒もいます。簡単に読めて面白い本をカウンターの前に展示して、生徒に声をかけるきっかけを作ったり、分類に関係なく書店のような特集コーナーを作ったり。図書館の入り口から、机やブックトラックを使った展示で、奥の方への導線を作ることも意識してやっています。

近隣の情報館ユーザーから詳しく話を聞いてリプレースを決めました

——資料のデータ作成や装備は外注ではなく図書館で行っているのですか？

はい。資料データ入力にはTOOLiを利用しています。図書だけでも年間1200冊ほど購入していて、選書も全て司書が行っています。最近の悩みは、移転してしばらく経ち、保管場所に余裕がなくなってきたことですね。



——2017年に情報館を導入していただきました。

以前は、大手メーカーの学校向け図書館システムを使っ

ていましたが、そのシステムが保守終了になり、今後どうするかについて検討しなければいけなくなりました。そんなとき、福岡の学校図書館の集まりで、色々



な学校向け図書館システムのプレゼンを見る機会があり、そこで情報館を知りました。

——情報館を選ばれた理由はなんだったのでしょうか。

近くの同じ私立の高校で情報館を導入していたので、司書さんから直接色々話を聞くことができたことが大きかったと思います。本校は規模が大きいこともあり、以前のシステムをととも“使い込んで”いて、機能改善の要望を出すことなども多くありました。しかし、後継として紹介された同社のシステムは、後継といってもその時使っていたものと同等の機能があるわけではなく、本校には合わないのではないかという不安がありました。

——情報館を導入いただいてからも、色々ご質問やご要望を承っていて、とても熱心に情報館を使っていたいただいていることが感じられます。

まだ、「使いこなす」ところまでは全然たどりつけていません。前システムとの違いに少しずつ慣れてきているところです。もっと情報館を使いこなして業務を効率化できたらいいなと思います。他のユーザーがどのように情報館を使っているか興味があるので、情報館のセミナーやユーザー会にも行ってみたいのですが、福岡からはなかなか……。

——「オンデマンドセミナー」という出前形式のセミナーもあり、各地で開催していますので、福岡の学校図書館を中心に開催できたらいいですね。

はい、近隣のユーザー同士で情報交換する機会があったら嬉しいです。

——ここまで色々なお話をお伺いして、“文武両道”の一側面を支える存在として、図書館や司書さんへの期待が大きいと感じました。情報館が、忙しいお二人の力になればと思います。

本日は、ありがとうございました。

システム構成	基本システム 4台 館内用 OPAC2 台 (ネットワーク)
蔵書数	図書約 5 万冊 (東福岡高等学校 情報メディアセンター分)
導入年	2017年

データは2018年10月現在のものです